

# SDGsに資する高齢者の低栄養予防事業

～一般社団法人在宅栄養ケア推進基金～

一般社団法人在宅栄養ケア推進基金は、医師の偏在・医療従事者の高齢化等により、維持存続が危ぶまれる地域医療を守るため、高齢者の低栄養防止事業に取り組んでいます。高齢者の低栄養は、一般的な栄養失調と異なり、病気や薬の有害事象、認知症/鬱などの精神的要因、口腔機能障害など多様な原因で発症し、放置すればサルコペニア(筋肉減弱症)・フレイル(虚弱)を経て、要介護状態に陥りやすくなりますので、JAグループの「JA健康寿命100歳プロジェクト」と連携し、いつまでも美味しく食べるための「食力」を促し、農産物の消費拡大、機能的食品の創出など、農業者の所得増大と地域活性化を促し、病気の重症化予防と自立支援(介護予防)につなげる「医福食農連携事業」を全国拡散して、持続可能な社会の構築を目指します。



一般社団法人在宅栄養ケア推進基金  
代表理事 溝淵 敏水  
(医療法人聖真会 渭南病院 院長)

高齢者の低栄養予防の取組みが、**農業者の健康寿命延伸と所得増大へ...**

